



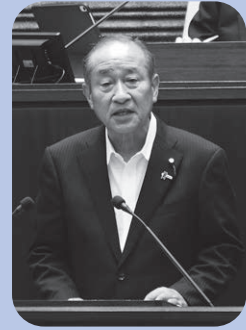
栄養講座の様子

**答** 心不全発症予防の取組として、食生活に関しては、管理栄養士などが主催する栄養講座や食生活改善推進員による学習会を実施し、運動に関しては、日々の歩数などでポイントが貯まる「わくわく健康ポイント事業」などを実施している。

重症化予防の取組としては、国民健康保険の被保険者を対象に特定健康診査を行い、特定保健指導対象者と診断されたかたに、保健師や管理栄養士による特定保健指導を実施している。

心不全のリスクを回避するためには、生活習慣の改善と特定健康診査の定期的な受診が重要であり、今後も県と連携し、各種事業を進めることで、心不全による死亡率減少を目指し取り組んでいきたい。

井上 浩二 議員



- (二 般 質 問)
- 1 指定ごみ袋の有料化について
  - 2 新型コロナウイルス感染症について

指定ごみ袋の有料化

検討状況は？

問

安定的なごみ処理の継続のため、指定ごみ袋の有料化を検討していると聞き及んでいる。持続可能なごみ減量を推進する上で、ごみ袋は市民が使用しやすい形状にするべきであるが、どのように考えているのか。

また、指定ごみ袋の価格設定やごみ袋有料化導入による収支見込み額についてはどのように検討しているのか。

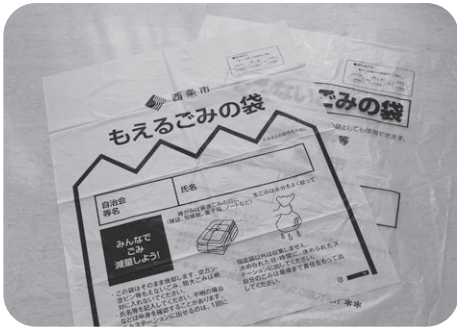
更に、配付済み指定ごみ袋の使用期限などは、どのように取り扱う考えなのか。

答

指定ごみ袋の形状については、以前より、ごみ袋の口を縛ったり持ち運んだりしやすいような、耳付きへの変更要望が市民からもあることから、利便性や費用対効果を踏まえて検討したい。

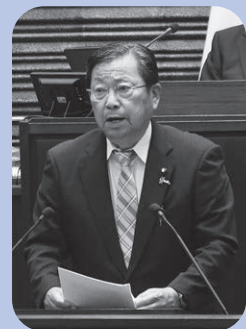
指定ごみ袋の料金は現在検討中であり、収支見込みは処理手数料が決まっていないため算出していない。なお、有料化による収入は、ごみ減量化・資源化などを目的としたごみ処理関係事業及び老朽化したごみ処理施設の更新費用として活用したい。

また、配付済み指定ごみ袋の取り扱いについては、市民が混乱することなく円滑な移行が図られるよう、適切に判断していきたい。



現在使用している指定ごみ袋

今井 廣一 議員



- (二 般 質 問)
- 1 各種団体への補助金交付について

各種団体に対する補助金交付の見直しを！

問

市は、行財政改革の観点からさまざまな取組の見直しを行っており、そのことが市民生活にも少なからず影響を及ぼしている。昨今の財政状況などを考慮すると、補助金の見直しを行い、誰もが納得できる適正な交付に努める必要性があると思うが、どのように考えているのか。

また、収益性のある活動を行っている団体への交付や多額の補助金を交付している事例が見受けられる。適正な交付のため、補助金交付に係る事務手続きをどのように行っているのか。

答

補助金は、行政課題を解決する有効な手段であるが、一方で補助の長期化による既得権化といった課題もある。より活動に見合った補助金額とするためには、団体などへの運営費補助から事業費補助への転換も必要であると考えている。

補助金の交付手続きに関しては、必要な手続きについて規則などを定め、その要件に適合するものかどうかを審査し、適正に交付している。

補助金は、公益上必要がある場合に交付するものであり、その原資が税金であることに鑑み、今後の厳しい財政状況を踏まえ、限りある財源を有効活用していきたい。

